

2017年12月27日

SAM日本チャプター会員 各位

SAM東京支部事務局

2018年1月度 東京支部例会について（ご案内）

拝啓 歳末の候、会員各位におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、SAM東京支部の2018年1月度例会についてご案内いたします。

今回は、東京支部の会員で、株式会社グリーンフレンズ代表取締役として活躍されている伊藤芳康様をスピーカーにお迎えして、「今、『なぜゴジラ』なのでしょうか?」と題して、下記のポイントでご紹介した内容で熱く語っていただきます。

ご多忙の折とは存じますが、会員各位の多くのご参加をお待ちしています。

敬具

記

■日 時：2018年1月23日（火） 12:00～13:40

■会場：公益社団法人日本外国特派員協会（プレスクラブ）会議室

〒100-0006 千代田有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館20階 TEL:03-3211-3161

※今回の会場は、プレスクラブです。お間違いのないようご注意ください。

■スピーカー：伊藤 芳康 氏 株式会社グリーン・フレンズ 代表取締役社長

1976年慶應義塾大学卒業、同年三菱信託銀行入社。

1981年米国デンバー大学大学院修了、MIM取得。ロンドン支店、中野支店長を経て2003年執行役員札幌支店長、2005年執行役員リテール企画推進部長、2006年三菱UFJ信託銀行執行役員京都支店長。2008年株式会社間組専務取締役を経て、2010年菱永鑑定調査株式会社代表取締役社長、2013年三菱UFJトラスト保証株式会社代表取締役会長。2016年より現在に至る。

■テーマ：「今、『なぜゴジラ』なのでしょうか?」

【ポイント】：1954年に封切られた『映画初代ゴジラ』。以来63年の月日が流れ、その間に東宝版が28作、ハリウッド版が2作、それぞれ制作されました。この合計30作のゴジラを全く無視し、無かったことを大前提として、一から作り上げたのが2016年に公開された『映画シン・ゴジラ』だと思いました。

『映画シン・ゴジラ』は、『映画初代ゴジラ』を原点としています。そして、『映画初代ゴジラ』は「戦争」の象徴として「太平洋戦争」「東京大空襲」「原爆投下」をモチーフにしていると考えています。『映画シン・ゴジラ』は「原子力発電所」を象徴しており、『3.11』における「地震」と「津波」並びに「原発事故」をモチーフにしていると考えています。

今回はそれらを少しずつ紐解いていきながら、日本政府の政治的対応に視点を置いて、巨大な災害に直面した政府の初期対応の不味さとその後の政治的対応の見事さ、自衛隊の国家危機への対応、日米安保条約の発動など、本当にこのような事態が発生した場合のシミュレーションを検証します。さらにシン・ゴジラによって破壊された首都機能が日本全体の経済、つまり株価や為替そして金利にどのような影響を与えていくのかを頭の体操のごとくシミュレートしていきます。

最後に私自身の根本的な『なぜゴジラ』について簡単にお話ししたいと考えております。

■会 費：3,000円

■出欠の有無：2018年1月16日（火）までに事務局へお知らせください。

※お申し込み後にキャンセルされる場合は、前々日までにご一報ください。

以上

【事務局】〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15
学校法人産業能率大学総務部総務課内 伊藤卓郎
電話番号 03-3704-9046
FAX番号 03-3704-9430
Eメールアドレス sam@hj.sanno.ac.jp